会　報
第　号
さくらお
廿日市市郷土文化研究会

「さくらお　目録　第1－50号」

平成20年11月吉日作成

発行	号	さくらお　第1－50号　目次	文責(敬称略)
昭和59年1月1日	創刊号	発刊にあたつて	石田米孝
		廿日市町郷土文化研究会の歴史は、既に三十有余年になる。戦後、ようやく日本の前途に光を見始めた頃、会員有志の心にふるさとの過去を振り返る気持が溢れたのが、この会の出発だったわけである。	
		廿日市町郷土文化研究会　昭和五十八年の動き	高本等
		″さくらお″の発刊に際して	白尾啓重
		第二のふるさと ″はつかいち″	鎌田定雄
		==豆辞典==　なまこ壁	
昭和59年2月1日	2	押型文土器の検出について	今田三哲
		▲教育の現場に郷土資料の活用を考えて▲	伏本節夫
		昭和32年11月速谷神社の社務所で小中高の教師中心の郷土教育研究会発会	
		現代を後世に!	堀ちず子
		=夢=	大嶋敦子
		==豆辞典==　火燈窓　極楽寺本堂	
昭和59年3月1日	3	″往来手形が発見された″	品本五三
		″すぐそこに歴史が″	草野麗子
		郷土文化研究会に入会して	中江典子
		奈良時代の瓦発見と円満寺	今田三哲
		==豆辞典==　駒寄せ	
昭和59年4月1日	4	平良にある長足一石五輪等	清水契二
		石の声	鎌田定雄
		鋳工　綱家作　鉄燈籠について	
昭和59年5月1日	5	″一万年前の石槍″	今田三哲
		芸北紀行　花田植【はやし田】	草野麗子
		古城址めぐり ①　宗高尾城	
		民族史料館の建設を	堀ちず子
		==豆辞典==　竪堀(たてぼり)	
昭和59年6月1日	6	正覚院の時太鼓	管梅正覚院住職
		廿日市の鋳工　山田次右衛門尉の梵鐘　　広島市の文化財″抜粋″	
		古城址めぐり ②　獄尾城	
		安芸の国の手まり唄	鎌田定雄
昭和59年7月1日	7	廿日市の渡辺英子(えいし)の塾は広島県で一番古い	今田三哲
		山口県地方史研究会誌芸備関係史料	大嶋敦子
		桜尾城の井戸か!	遠下
		歴史資料館を訪れて　－本郷村歴史民族史料館－	
昭和59年8月1日	8	金の鶏はどこで啼こうか　塔岩の頂上岩落ちる	高本等
		″今を後世に″	堀ちず子
		古城址めぐり ③　篠尾城	
		==豆辞典==　むしこ窓	
昭和59年9月1日	9	町屋跡の試掘について	今田三哲
		沢山の人々ほ見て欲しい	草野麗子
		古城址めぐり ④　谷宗尾城	
昭和59年10月1日	10	宮内村宮迫の明神伝説	大嶋敦子
		福島正則の惨刑について	平田三也
		俵もみの歌	
昭和59年11月1日	11	わからない歴史のこと	石田米孝
		津和野藩御船屋敷へ盗賊侵入のこと	平田三也
		古城氏	
		古城址めぐり ⑤　越峠尾城	

発行	号	さくらお　第1－50号　目次	文責(敬称略)
昭和59年12月1日	12	廿日市町に伝わる毛毬唄	大嶋敦子
		眠れなかった話	草野麗子
		周防の秋	谷口美利
昭和60年1月1日	13	明けましておめでとうございます	石田米孝
		・・・時間と共に関心も変り、古いことは忘れてしまいます。従って、出典を明記しないと、自分の研究も自分にさえ役に立たないことになります。また、書かれ印刷されないものは結局は消えてしまいます。ですから、この「さくらお」は小さなパンフレット意〝はありますが、これを会員各位が活用され、ぜひ、意義あるものにしたいものです。	
		高尾山遺跡の発掘	今田三哲
		郷土文化研究会五九年の動き	高本等
		編集後記	
		・・・種箆駅は五日市町三宅にあったのか?　定説となっているとの関係は?　何としてでも遺構をさがしあてねば。	
昭和60年2月1日	14	廿日市の医師三柳と青病について	平田三也
		折敷畑山古戦場探訪	中江典子
		周防路探訪	谷口美利
		高尾山遺跡　一日発掘記	中江典子
		編集後記	
		折敷畑山にある陸軍要塞区域標石柱(高さ約一米)は井出口さんが背負って登ったそうである。手ぶらでも大変なのに。	
昭和60年3月1日	15	桜尾城下家中屋敷について	
		廿日市町に伝わる民謡	大嶋敦子
		緑・思い出	桑原貞紀
昭和60年4月1日	16	今も尚大竹に残る伝統の紙すき	草野麗子
		あきのくに　出合のしみつ　鷺の森 　　阿弥陀の峰に　いつくしま山	
昭和60年5月1日	17	船霊(ふなだま)さん	高本等
		清盛祭にて(説教源氏節人形)	草野麗子
		本会〝広島県郷土史研究団体連絡協議会〝に加盟する	
昭和60年6月1日	18	大新の桶ずし	今田三哲
		廿日市の句碑	大嶋敦子
		諸宗・宗派の戒名と基本　2	桑原貞紀
昭和60年7月1日	19	廿日市の歌碑　2	大嶋敦子
		管絃祭大提灯の由来について	鎌田定雄
		諸宗・宗派の戒名と基本　2	桑原貞紀
昭和60年8月1日	20	交通と賃金・今昔	桑原貞紀
		瑠璃光寺の正法眼蔵	遠下
		廿日市の句碑　3	大嶋敦子
		【芸備日報】より	
		明治二十一年八月四日付　　新開破壊	
		佐伯郡廿日市に従来築掛ありし桜尾新開を昨年服部長七が譲り受立派なる新開となしたるに風の神も無惨に此程の暴風雨に大破壊。	
昭和60年9月1日	21	廿日市の句碑　4	大嶋敦子
		諸宗・宗派の戒名と基本　3	桑原貞紀
		宮島八景	大倉信三
		桜尾城麓　〝木屋〝について	遠下
		【芸備日報】より	
		佐伯郡役所　同役所ハ目下庁舎新築中・・・十一月三日を以て移転開庁・・・	
昭和60年10月1日	22	廿日市の句碑　5	大嶋敦子
		広島瓦斯電軌	桑原貞紀
		廿日市の鳥居　1	藤下
		諸宗・宗派の戒名と基本	桑原貞紀
昭和60年11月1日	23	今は昔。洞雲寺辺の様子	平田三也
		廿日市の句碑　6	大嶋敦子
		海上交通　内海と大陸	桑原貞紀
		廿日市の鳥居　2	藤下

発行	号	さくらお　第1－50号　目次	文責(敬称略)
昭和60年12月1日	24	廿日市の句碑　7	大嶋敦子
		菅谷半之丞の事	平田三也
		各宗の総本山と主要寺院及分派　1	桑原貞紀
		廿日市の鳥居　3	
昭和61年1月1日	25	新年おめでとうございます	石田米孝
		郷土文化研究会の昭和六十年乙丑の動き	高本等
		昔の正月	高本等
昭和61年2月1日	26	廿日市の句碑　8	大嶋敦子
		各宗の総本山と主要寺院及分派　2	桑原貞紀
		速谷神社社殿について　・・・去る一月十四日深夜社殿が焼失して・・・・	
昭和61年3月1日	27	廿日市の句碑　9	大嶋敦子
		高砂古墳の発掘調査概要	藤下
		各宗の総本山と主要寺院及分派　3	桑原貞紀
昭和61年4月1日	28	廿日市の鳥居　4	
		各宗の総本山と主要寺院及分派　4	桑原貞紀
		廿日市の句碑　10	大嶋敦子
昭和61年5月1日	29	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″1	遠下
		廿日市の句碑　11	大嶋敦子
		没落していった親方衆	国光敏夫
昭和61年6月1日	30	廿日市の句碑　12	大嶋敦子
		″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″2	遠下
		殿様はロマンチスト　①　−城のニックネーム考−	鎌田定雄
昭和61年7月1日	31	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″3	遠下
		廿日市の句碑　13	大嶋敦子
		殿様はロマンチスト　②　−城のニックネーム考−	鎌田定雄
昭和61年8月1日	32	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″4　　お菊地蔵の由来	遠下
		廿日市の句碑　14	大嶋敦子
		殿様はロマンチスト　③　−城のニックネーム考−	鎌田定雄
昭和61年9月1日	33	″お盆の精霊流し″	高本等
		廿日市の句碑　15	大嶋敦子
		「洞雲寺関係資料詳解」	桑原貞紀
昭和61年10月1日	34	廿日市の句碑　16	大嶋敦子
		″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″5	遠下
		「洞雲寺関係資料詳解」2　洞雲寺誌	桑原貞紀
昭和61年11月1日	35	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″6	遠下
		廿日市の句碑　17	大嶋敦子
		「洞雲寺関係資料詳解」3	桑原貞紀
昭和61年12月1日	36	幕末のチャラキン騒動	国光敏夫
		″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″7	遠下
		「洞雲寺関係資料詳解」4	桑原貞紀
昭和62年1月1日	37	新年おめでとうございます	石田米孝
		郷土文化研究会の昭和六十一年の動き	高本等
		廿日市の句碑　18	大嶋敦子
昭和62年2月1日	38	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″8	遠下
		「洞雲寺関係資料詳解」5　洞雲寺誌	桑原貞紀
昭和62年3月1日	39	廿日市の句碑　19	大嶋敦子
		「洞雲寺関係資料詳解」6　洞雲寺誌	桑原貞紀
昭和62年4月1日	40	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″9	遠下
		廿日市の句碑　20	大嶋敦子
		「洞雲寺関係資料詳解」7　洞雲寺誌	桑原貞紀
昭和62年5月1日	41	廿日市の句碑　付記(1)	大嶋敦子

発行	号	さくらお　第1－50号　目次	文責(敬称略)
		廿日市の行事《五月》	桑原貞紀
		″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″10	遠下
昭和62年6月1日	42	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″11	遠下
		廿日市の句碑　付記(2)	大嶋敦子
		端午の節句	桑原貞紀
		住吉まつり　すみよっさん	桑原貞紀
		住吉社は元は潮音寺の近くにあったが住吉新開が出来てから	
		現在地に移転	
		【芸備日々新聞】より	
		明治二十四年七月二日付　地御前神社修繕の神賞	
昭和62年7月1日	43	廿日市の歌碑《1》	大嶋敦子
		すばらしき文化宅急便	鎌田定雄
		折敷畑の合戦日について	藤下
		【芸備日々新聞】記事より	
		明治二十三年十二月十四日付　道路改修起工式・・宮内砂原より三和村	
		明治二十四年七月七日付　　改築道路竣工式	
昭和62年8月1日	44	″極楽寺道三十七丁ぶらり旅″12	遠下
		廿日市の歌碑《2》	大嶋敦子
		日々のくらし・神をまつる	桑原貞紀
		▼廿日市警察署建て替え　昭和九年に建てられた・・・	
		▼速谷神社社殿再建について　昭和六十一年一月十四日未明焼失・・・	
昭和62年9月1日	45	廿日市の歌碑《3》	大嶋敦子
		第九回県史神辺大会　神辺史跡見学会に出席して	斉藤和子
		廿日市の行事《九月》	桑原貞紀
		《山口ところどころ》	
昭和62年10月1日	46	「中世桜尾時代の貨幣について」	国光敏夫
		廿日市の歌碑《4》	大嶋敦子
		廿日市の行事《十月》	桑原貞紀
		《桜尾城下小方屋敷に就いて》	遠下
昭和62年11月1日	47	＜極楽寺道三十七丁ぶらり旅＞13	遠下
		廿日市の行事《十一月》	桑原貞紀
		廿日市の御詠歌《1》	大嶋敦子
		《廿日市町屋跡の発掘調査速報》	藤下
昭和62年12月1日	48	《廿日市の飢民の供養等》	高本等
		廿日市町屋跡の貨幣	国光敏夫
		廿日市の御詠歌《2》	大嶋敦子
		廿日市の行事《十二月》	桑原貞紀
昭和63年1月1日	49	恭賀新年	石田米孝
		《郷土文化研究会の昭和六十二年の動き》	高本等
		廿日市の行事《一月》	桑原貞紀
		廿日市の御詠歌《3》	大嶋敦子
		廿日市町屋雑感	国光敏夫
昭和63年2月1日	50	[印地の弾か]	今田三哲
		＜町屋発掘記＞	斉藤和子
		廿日市の御詠歌《4》	大嶋敦子
		廿日市の行事《二月》	桑原貞紀